

派遣先所属 浪江町市街地整備課F－REI立地室
氏名 岩佐 航 (いわさ わたる)
派遣期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日 (昨年度から継続派遣)

1 派遣業務の内容、現況

今年度も引き続き浪江町役場に派遣となりました。改めて私の配属先である市街地整備課を紹介すると、当課はその名のとおりに中心市街地の再生を図ることを目的として、令和5年4月に設立された課で、計画係、整備係、F－REI立地室の3係から構成されています。浪江町は東日本大震災に伴う原子力災害により、平成29年3月まで全町避難を余儀なくされたことで、従来の中心市街地の荒廃が進み現在も同様の状況が続いています。そこで令和3年3月に「浪江駅周辺整備計画」を策定し、中心市街地の再生を進めていくこととなりました。その後、令和4年3月に具体的なアクションプランを示した「浪江駅周辺グランドデザイン基本計画」が策定されました。この計画では浪江駅周辺に、建築家の隈研吾氏のデザインの力を活用した町の再生を目指し、商業施設や交流施設、住宅等の施設を整備する予定です。計画係と整備係は令和9年のまち開きを目指し、「グランドデザイン基本計画」の実現に向けて事業を推進しています。

その中で私が所属するF－REI立地室は、令和5年4月1日に国の特殊法人である「福島国際研究教育機構（以下「F－REI」という。）」が浪江町に設立されたことを受け、F－REI誘致を円滑に進めることを目的とした課です。現在はF－REI工事に関する調整や、F－REI周辺のまちづくり、また様々なソフト面の支援を実施しています。職員は8名でそのうち6名が派遣職員ですが、和気あいあいとした雰囲気の係です。

令和5年度はF－REIの設立に伴う町の方向性を決めるために「浪江国際研究学園都市構想（以下「構想」という。）」を策定しました。構想では、F－REI機能との関係性を踏まえ、①誰もが過ごしやすいまちづくり、②浜通り・福島県の広域連携による産業振興・雇用創出、③国際的な研究環境で活躍し、復興をリードする人材の育成・確保、④伝統文化の承継と新たな浪江文化の創出、の4つの目標を掲げています。

令和6年度はこの構想の取組を具体化すべく、新たに浪江駅西側地区（F－REI東側）の整備計画を取りまとめています。浪江駅西側地区はF－REIの玄関口となるエリアで、浪江駅周辺整備事業とF－REI本施設整備と合わせて実施することで、相乗効果を発現させようというものです。また、本地域においては公共で敷地から建物まで全ての整備を行うのではなく、基盤整備を公共で、施設建築や運営を民間で実施するという、公民連携によるまちづくりを実施していく予定です。

そのため地元住民や関連企業等を対象にした公民連携セミナーの開催や、浪江駅西側地区の事業化に向けた具体的な民間アイデアを募るなど、民間需要の把握も併せて実施しているところです。

私の業務の1つとしては、この駅西の整備計画策定に向けて、関連資料の収集やインフラ関係の情報整理等を担っています。専門的な見解等を求められる場面もあり困惑することもあります

が、周りの職員に助けられながら業務を進めています。困難もありますが、自ら携わった業務が今後のまちづくりに繋がっていくという貴重な経験をさせてもらっています。

2 被災地の復旧・復興の状況

町内の平野部では浪江駅周辺整備事業や復興牧場、産業団地整備等の事業が進んでおり、インフラ面での復興は大分進んできた印象です。浪江駅周辺整備事業では、今年度から敷地造成工事が始まりました。これに伴い、私が着任した際にまだ残っていた駅前の空家屋も解体が進み、昨年と比較しても着実に復興が進んでいます。一方、長らく帰還困難区域の指定を受けている常磐道以西の大堀地区や室原地区、山間部の津島地区等は、現在も大部分が帰還困難区域に指定されており、このエリアを復活させるにはまだまだ時間が必要だと感じます。

人口の観点では、令和6年10月末現在で震災前の約10分の1となる2,254人に留まっています。町では将来的に8,000人を目指すとしていますが、10年以上に及ぶ避難生活で多くの町民が既に町外に生活基盤を築いてしまった中で、目標達成に向けた道のりは険しいものだと感じています。ただ、最近は都心部から浪江町に移住してくる若年層が少しずつ増えており、将来的にF-R-E-I関連人口の増加も見込める等、必ずしも悲観の見方ばかりではありません。こうした町外からの移住者と従来の町民の交流から新たな浪江町が形作られていくことを期待しております。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

浪江町には全国の自治体や民間企業から職員が派遣されており、こうした様々な方と関わることで自らの知見が大きく広がった気がします。これは原子力被災地に派遣されたからこそ得られた貴重な経験でした。また、まちづくりという今までとは180度異なる業務に携われたことも、私の今後の人生の中で大きな転換点になったと感じています。その意味でも、この2年間浪江町に派遣させて頂いたことに非常に感謝しております。

趣味の話では、今年度同じく埼玉県派遣の同僚に誘っていただき登山を始めました。個人的に登山を始めて良かったことが2つあります。1つ目は健康的であるということ。やはりそれなりの山に登る際は往復で15km以上活動するので、消費カロリーは1,500kcalにも達します。下山後の食事や飲酒も気にする必要がありません。2つ目は下山後の温泉が大変気持ち良いこと。元々温泉巡りが趣味でしたが、登山後に入る温泉では疲労回復を実感でき、まさに極楽浄土と言えます。温泉から上がり宿の夕食と地酒をともに喫する、これ以上の楽しみは人生においても中々見つけることができないと思います。この趣味は来年度以降も続けていきたいです。

仕事において浪江町と関わるのは恐らく今年度が最後となりますが、縁あってできた町との繋がりがりますので、引き続き何らかの形でこの町の復興に関わっていきたいと思います。



公民連携の先進地 オガール紫波
(岩手県紫波町)



F-REI 参考施設 沖縄科学技術大学院大学
(沖縄県恩納村)



安達太良山山頂付近からの眺望 (二本松市)



蔦温泉 (青森県十和田市)



尾瀬燧ヶ岳山頂碑 (桧枝岐村)



姥湯温泉 (山形県米沢市)